

開講一周年記念の集い

平成20年10月4日

於 女性総合センター・アイム ホール

レポート

Voice

秋の訪れを感じはじめた10月4日、「市民の学び、この一年、そしてこれから」と題して、市民交流大学の一年間の活動を振り返るとともに、これからの展望を市民の皆さんと語り合おうと、「たちかわ市民交流大学開講一周年記念の集い」が開催されました。

立川市立第九小学校から駆けつけてくれた、総勢36名の和太鼓クラブの子どもたちによる太鼓演奏で始まった、一周年記念の集い。

小学生とは思えない迫力、演奏力に会場にいる大人たちも驚かれたのではないのでしょうか。

残念なことに、彼らの保護者の皆さんには、市民交流大学をご存知ない方もいらしたようですが、お子さんの活動を通じて、そうした世代が市民交流大学を知るきっかけを得られたことはうれしい限りです。



リレートーク



●壇上のパネリスト●

- 小林 郁義 さん (市民活動センターたちかわ)
- 柴 俊男 さん (立川市文化協会会長)
- 宮崎 賀甲 さん (シルバー大学受講生)
- 小川 渚 (たちかわ市民交流大学市民推進委員会)
- 竹内 明美 (同上)
- 小峰もと子 (同上)

●アドバイザー●

- 小林 文人 さん (たちかわ市民交流大学企画運営委員会委員長)
- 蒲生 忍 さん (同副委員長)

●進行●

- 宮本 直樹 さん (たちかわ市民交流大学企画運営委員会委員)

さて、この催しのメインとなるのは、市民交流大学の今後を語るリレートークです。リレートークの始まりは壇上から。市民交流大学の経過や今後の展望などが紹介されました。興味深いお話がたくさんありましたが、今回は、市民の声をピックアップしてご紹介します。

■市民活動センターたちかわ・小林さん

「講座参加の後に、学んだことを教える立場になったり、サークルや団体などに発展させたりできればよいのではないかと。市民交流大学に関わる人は多く、無限の可能性を持っている。さまざまな人の、世代を越えた交流で、まちが豊かになればよいと思う」

■シルバー大学受講者代表・宮崎さん

「いろいろ学びながらリタイア後の生き方を模索中。自分は会社人間で地元意識はなかったが、シルバー大学で学ぶうち、市民意識、仲間意識をもった。これからの人にとっても良い機会となると思う」

■立川市文化協会・柴さん

「一人一人が能力を伸ばして立川をつくる。誰でも講師になりうる。立川の歴史を再確認したり、地域の長寿者に話を聞いたりするなど、講座の企画としては限りない広がりがあるでしょう」

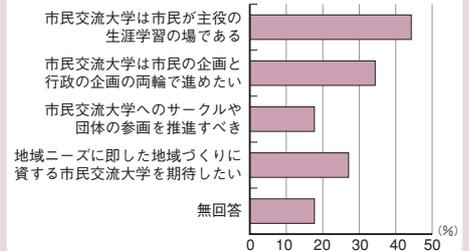
この後マイクは壇上から下り、会場に来ている市民のみなさんの言葉につながりました。

市民交流大学アンケート結果速報（開講一周年記念の集い参加者に聞く）

市民交流大学をより良いものとしていくため、市民の皆さまを対象としたアンケートを実施しました。結果は現在集約中ですが、今回は「開講一周年記念の集い」にご参加いただいた方からの回答を速報でお知らせいたします。なお、正式なものについては今後に掲載予定です。

- 「集い」参加者の属性から、いかに60歳代の男性など、少し前まで会社人間だった団塊の世代の方々にとって魅力ある講座を展開できるかがキーワードのひとつになってくるのではないかとということが読み解けます。また、講座を受講いただいた方だからこそ「集い」にもおいでいただけたとすると、「まず、一度でもよいから受講していただく」ことが重要なのではないのでしょうか。
- 「市民交流大学についての考え方」は、『市民主役の生涯学習の場』と『市民企画と行政企画の両輪で進める』が大半を占めています。これらは、市民交流大学のもっとも重要な理念であり、今後も一層推進していく必要があります。
- 今後期待する講座については、立川の歴史や特産、地域力に関すること、朗読、うたごえ、経済・世界情勢、パソコン、環境、認知症関連、コミュニケーション、野外活動・体験の講座など、多岐にわたる意見が寄せられました。
- 市民交流大学の今後についてのご意見としては、より一層のPR、ホームページの充実、土日・夜間の開催など日程の改善、ネットワークの形成、子どもや若者対象の講座・定年後の生活をサポートする講座・達成感を持てる講座の開設などのご意見をはじめ、「ボランティア団体は楽しく・仲良く」といったご意見もいただきました。今後の活動や企画づくりなどに生かしていきたいと思っております。

市民交流大学についての考え方



会場の皆さんのこえ

幸町のIさん：定年退職後の生き方を模索中に会った「男の生き方」講座。終了後に有志でサークルを作りました。地域デビューしたい方たちに参加を呼びかけ、今後も社会参加していきます

栄町のTさん：（放課後子ども教室などの事例から）学校を交流の場として活用しては？ 学習館のバリアフリー化、エレベーター設置などを進めてほしい

高校生Bくん：市民交流大学の存在自体を知らなかったが、今日冊子を見て、参加したい講座がたくさんあってびっくりした。若い世代にももっとPRをして欲しい

栄町のAさん：いろいろ興味はあるが、既にある団体には入りにくい……。いつでも参加可能な活動があればありがたい

砂川町のFさん：市民・団体・行政による三通りの講座。このそれぞれに、しっかりとした目標をたててほしい。
きらり・たちかわの発行部数が少なすぎる。広告スポンサーを募るなどして、全戸配布にできないか？

Mさん：様々な障害者に配慮した講座の企画があるとうれしい

Yさん：異文化コミュニケーション活動に努めています。外国籍の方々との交流を主眼にした講座がもっとあるとうれしい

様々な立場の方々に語っていただき、市民で作り上げる市民交流大学にふさわしい意見が活発に出されました。まだ、よちよち歩きの市民交流大学です。皆さんにも、ぜひ“育児”に参加していただきたいと願っています。この一周年記念の集いに限らず、いつでも市民の声を取り入れていきたいと思っています。

今後もますます発展し飛躍する市民交流大学でありますように!!